

### 1. 本堂貫材の修理状況

本堂の貫材は松が使用されており、辺材部分を中心に虫害が顕著であった。しかし赤身部分は比較的良好的なものが多く、松の補足材を用いて剝木・継木修理を施している。

貫材の化粧面には多数の墨書が残るなど資料的価値が高いため、表面や角部のみ虫害を受けている部分は、状況に応じて合成樹脂や人工木材等を使い分け、オリジナル部分を可能な限り残すよう留意している。



### 2. 本堂丸柱の修理状況

本堂丸柱の状態は比較的良好であったが、背面通りの一部が足元を切り縮められていたほか、求聞持堂との取り合い部柱の芯周辺が白蟻の被害を受けていた。

また、修理前には柱の傾斜が顕著であり、各柱の底部に変形や腐朽が認められた。このため破損部分の剝木修理を行ったほか、一部に不陸調整のため鉛板を貼り付けた。



### 3. 本堂基礎部分の発掘調査状況

発掘調査により、本堂東面の軒下部分には正面および西面と同様の石積が築かれ、本堂が独立した基壇上に建てられていたことが確認できた。

また、求聞持堂取り合い部で確認された本堂軒支柱礎石は、当初土間面に掘方を設けて据えられていたため、本堂建立時から慶安の求聞持堂建設までの間に、軒支柱は補設されたと考えられる。

